

問1 日本の高度経済成長期にあたる1970年頃の貿易統計において、石油（14.8%）や鉄鉱石などの原材料の輸入割合が目立って高かった理由として、最も適切な説明はどれか。（2022年 沖縄公立入試 類似）

- 鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業が発展し、製造工程で大量の資源やエネルギーを必要としたため。
- 欧米諸国との貿易摩擦を避けるために、製品の輸出を自粛して原材料の輸入を強制的に増やしたため。
- 日本国内で綿花や生糸などの繊維原料が自給できるようになり、海外から輸入する必要がなくなったため。
- 高度経済成長によって国民の生活が豊かになり、自家用車を動かすためのガソリンが不足したことが唯一の要因である。

問2 日本の輸入相手国として東アジア、特に中国の占める割合が非常に高くなった背景として、日本の企業の動きから説明できる理由は何ですか。（2023年 山形公立入試 類似）

- 多くの日本企業が生産拠点を中国などの海外へ移し、現地で生産した製品を日本へ逆輸入する仕組みが定着したため。
- 日本国内の労働賃金が中国よりも安くなったため、中国から原材料のみを輸入して国内で組み立てるようになったため。
- 日本企業が重化学工業から伝統的な手工業へ産業の中心を移したことで、アジア諸国からの原料輸入が不可欠になったため。
- 日本のすべての製造業が国内生産を廃止し、生活に必要なすべての物資を東アジア諸国からの輸入に頼る方針を立てたため。

問3 日本の米の輸出量と輸入量の推移をまとめた統計において、1965年から1970年にかけて、一時的に輸出量が輸入量を上回る逆転現象が起きました。この時期に米の輸出量が輸入量を上回った背景として、最も適切な理由を説明しているものはどれですか。（2022年 神奈川県公立入試 類似）

- 農業技術の向上による収穫量の増加や、食生活の変化に伴う消費量の減少により、国内で米が余る「過剰米」の問題が生じていたため
- 世界的な食糧危機が発生し、日本政府が人道支援のために国内の備蓄米をすべて海外へ売却することを優先したため
- 工業製品の輸出を促進するため、貿易相手国から米を輸入することを法律で厳しく制限し、国内産の米を強制的に輸出させたため
- 高度経済成長による人手不足で稲作が衰退し、輸入を頼る状況から一転して、政府が米の生産を完全に放棄したため

問4 日本の輸出入品目について、航空貨物と海上貨物の特徴を説明した文として、適切な組み合わせはどれですか。（2024年 和歌山公立入試 類似）

- 輸出では航空貨物で「半導体等電子部品」が、輸入では海上貨物で「原油」が多く運ばれている。
- 輸出では航空貨物で「乗用車」が、輸入では海上貨物で「医薬品」が多く運ばれている。
- 輸出では海上貨物で「科学光学機器」が、輸入では航空貨物で「石炭」が多く運ばれている。
- 輸出では海上貨物で「半導体等電子部品」が、輸入では航空貨物で「鉄鉱石」が多く運ばれている。

問5 都道府県別の農業統計において、野菜の産出額が約2,150億円に達し、今回比較された4県の中で最も多く、全国でも有数の農業県として知られる県はどこか、次の中から選びなさい。（2019年 千葉県公立入試 類似）

- 茨城県
- 鹿児島県
- 宮崎県
- 千葉県

問6 日本とアメリカの農業を比較した統計において、一人あたりの農地面積が約2.4haと狭い日本に対し、アメリカは約184haと非常に広大です。このような日本の農業の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 佐賀公立入試 類似）

- 限られた農地から高い収益を得るため、単位面積あたりの肥料消費量を多くして生産性を高める集約的農業が行われている。
- 広大な土地を効率よく管理するため、大型機械を導入して単位面積あたりの肥料消費量を抑える大規模農業が行われている。
- 狭い農地を有効活用するため、肥料をほとんど使わずに自然の力に頼る自給的な農業が中心となっている。
- 労働力不足を補うために、広い農地面積を確保しながら機械化を進め、単位面積あたりの収穫量を減らす粗放的な農業が行われている。

問7 関東から九州に至る太平洋ベルト地帯において、大規模な工業地域が集中している主な地理的要因として最も適切なものはどれですか。（2024年 栃木公立入試 類似）

- 大型船舶が停泊できる良港に恵まれ、原材料の輸入や製品の輸出に有利であったため
- 内陸部に広大な平地が広がっており、大規模な工場用地の確保が容易であったため
- 年間を通じて降水量が少なく、精密機械の製造に適した乾燥した気候であったため
- 周辺の山地から豊富な鉄鉱石や石炭が産出され、資源を自給自足できたため

問8 日本の食料自給率の推移を品目別に示した統計において、主食である米はほぼ100%を維持していますが、これに次いで自給率が高く、およそ80%前後で推移している品目として適切なものはどれですか。（2024年 三重公立入試 類似）

- 野菜
- 小麦
- 大豆
- 畜産物

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業が発展し、製造工程で大量の資源やエネルギーを必要としたため。	1970年頃の日本は高度経済成長の真っ只中にあり、産業構造が軽工業から重化学工業へと大きく転換していました。鉄鋼、化学、機械などの産業を維持・発展させるためには、国内で不足している石油、鉄鉱石、石炭といった原材料やエネルギー資源を大量に海外から調達する必要があったため、これらの品目が輸入品目の中で大きな割合を占めていました。
問2	<b>答え 1</b> 多くの日本企業が生産拠点を中国などの海外へ移し、現地で生産した製品を日本へ逆輸入する仕組みが定着したため。	1980年代後半以降、円高の影響や安い労働力を求めて、多くの日本企業が中国や東南アジアに工場を建設しました。そこで生産された家電製品や衣類が日本に送られる（逆輸入される）ようになったことが、中国が最大の輸入相手国となった大きな要因の一つです。
問3	<b>答え 1</b> 農業技術の向上による収穫量の増加や、食生活の変化に伴う消費量の減少により、国内で米が余る「過剰米」の問題が生じていたため	1960年代後半、日本では品種改良や農薬・化学肥料の使用といった農業技術の進歩により米の生産量が増大しました。一方で、高度経済成長とともに国民の食生活が多様化（洋風化）して米の消費量が減ったため、米が大量に余る「過剰米」が社会問題となりました。この余剰分を処理するため、一時的に輸出量が輸入量を上回る統計結果となっています。この後、政府は本格的な生産調整（減反政策）を開始することになります。
問4	<b>答え 1</b> 輸出では航空貨物で「半導体等電子部品」が、輸入では海上貨物で「原油」が多く運ばれている。	日本の貿易統計において、航空貨物の輸出上位には半導体などの電子部品や科学光学機器といった、精密かつ高価な製品が並びます。また、輸入においても鮮度が重視される食料品や医薬品などが航空機で運ばれます。これに対し、海上貨物の輸出では乗用車や鉄鋼などの重量物が、輸入では原油、石炭、液化天然ガス（LNG）などのエネルギー資源が大きな割合を占めています。
問5	<b>答え 1</b> 茨城県	茨城県は、関東平野の広大な平坦地と、首都圏という巨大な消費地に隣接する有利な条件を活かし、野菜栽培を中心とした農業が非常に盛んです。産出額の合計において全国トップクラスに位置することが多く、特にピーマン、はくさい、レタスなど多くの品目で全国上位のシェアを占めています。
問6	<b>答え 1</b> 限られた農地から高い収益を得るため、単位面積あたりの肥料消費量を多くして生産性を高める集約的農業が行われている。	日本は国土が狭く山地が多いため、農家一戸あたりの農地面積がアメリカと比較して極めて小さくなります。そのため、限られた土地を最大限に活用して収穫量を増やす必要があり、単位面積あたりに多くの肥料や労働力を投入する「集約的農業」が発達しました。対して、アメリカは広大な農地で大型機械を駆使した大規模な経営を行うのが特徴です。
問7	<b>答え 1</b> 大型船舶が停泊できる良港に恵まれ、原材料の輸入や製品の輸出に有利であったため	日本の工業は資源の多くを海外に依存しているため、港に近い臨海部に工場を建設することで、輸送コストを抑える戦略が取られました。これにより、太平洋沿岸の良好な港湾施設を持つ地域に工業が集中し、太平洋ベルトが形成されました。
問8	<b>答え 1</b> 野菜	日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内で自給する体制が整っているため100%近い数値を保っていますが、野菜についても鮮度が重要視される品目であるため、国内生産量が消費量の大部分を占めており、他の品目と比較して高い自給率を維持しています。これに対し、小麦や大豆は海外からの輸入への依存度が非常に高くなっています。